



アドビ、NAB で Creative Cloud 映像制作ツールの 新たなイノベーションを先行公開

他社の追従を許さない、映像制作ワークフローを一挙に加速する メジャーアップデートと新機能

※ 本リリースは、2014 年 4 月 2 日に弊社米国本社から発表された発表文の抄訳です

【2014 年 4 月 2 日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発（2014 年 4 月 2 日）Adobe（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は、本日、Adobe Creative Cloud の全ての映像制作アプリケーションを大幅にアップデートする計画を発表し、4 月 7 日から 10 日まで米ラスベガスで開催される「NAB 2014」で一連のイノベーションの概要を公開することを発表しました。[Adobe Premiere Pro CC](#) および [Adobe After Effects CC](#) のメジャーアップデートを含む、今回のアップデートでは、日常の制作作業をより簡単に短時間でを行い、映像制作のプロフェッショナルがビデオや TV 番組、映画、コマーシャルなど魅力的な映像を制作できるように設計された画期的な機能が追加されます。新機能は今後数ヶ月中に順次出荷を開始する予定です。また、NAB の会場では協調制作ワークフロープラットフォームである [Adobe Anywhere](#) の新機能のデモンストレーションも行います。

放送業界および映画業界で Adobe Creative Cloud ツールの採用が急速に拡大していることを改めて印象付ける事例として、アドビは、過去、アカデミー編集賞を 2 度受賞している映画編集技術者カーク バクスター氏がデヴィッド フィンチャー監督の次回作「Gone Girl」ですべての編集作業を Adobe Premiere Pro CC で行うことも発表しました。

映像制作ツールに追加予定の新機能を公開

NAB 2014 において、アドビはプロフェッショナル向け映像制作ツールに近く追加する予定の新機能の一部を公開します。新機能には以下が含まれます。

• 編集作業を加速する Premiere Pro CC の新機能

新機能には、After Effects CC で作成されたテキストアニメーションを Premier Pro CC から直接編集できる Live Text テンプレート、プロジェクトの自動保存ファイルを Creative Cloud のストレージに保存する自動保存機能、対象物に正確なマスキングを行って人物の顔やロゴにぼかしを入れる放送局での編集に不可欠なマスク & トラック機能などが含まれます。さらに、Premiere Pro や SpeedGrade に追加される新しいマスタークリップエフェクトではオリジナルクリップにエフェクトを適用できるようになります。

• After Effects CC により強力な機能を追加

高圧縮コーデックで撮影されたクロマキー素材のキー生成を、より効果的に行うキー合成エフェクトが搭載されたほか、Typekit 連携が Adobe Premiere Pro CC とともに After Effects CC でも可能となり、拡大するフォントライブラリーが利用できます。Creative Cloud の映像制作ツールに追加される予定の新機能の詳細については、[こちら](#)または日本語の [Focus In ブログ](#)をご参照ください。

Adobe Anywhere でリアルタイムの協調制作機能を強化

アドビは Adobe Anywhere についても重要なアップデートを発表しました。Adobe Anywhere は標準的なネットワーク環境で、Adobe Premiere Pro CC や Adobe After Effects CC などのプロフェッショナル向け映像制作ツールのユーザーが一元管理されたメディアやアセットを使用して協働作業を行うことができる協調制作ワークフロープラットフォームです。Adobe Anywhere を Creative Cloud と併せて使用することで、放送局や教育機関、政府機関など大規模な組織において、より深いレベルで連携した映像制作作業が可能になります。今回新たに、プロジェクトのバックアップをリアルタイムで行うホットバックアップ、Prelude CC のラフカットで編集を開始し、Premiere Pro CC でシーケンスの仕上げが行えるラフカット対応、Anywhere と After Effects CC のメディア処理を直接統合できる After Effects CC メディア処理機能が発表されました。

アドビはこれらの新機能のデモンストレーションを 4 月 7 日から 10 日まで、ラスベガスコンベンションセンターで開催される NAB 2014 で初公開します。アドビのブースはラスベガスコンベンションセンター、サウスホール #SL3910 です。アドビのブースでは他に、主要な顧客企業やパートナー企業での活用事例の紹介をおこなうほか、NAB の会場全体で 100 近くのパートナー企業のブースでアドビのプロフェッショナル向け映像・放送用ツールの展示が行われます。

【コメント】

アドビ プロダクト開発担当バイスプレジデント
スティーブ ワーナー (Steve Warner)

「今日、放送局や映画製作会社、出版会社、ビデオ制作プロフェッショナルは常に最新のフォーマットやフレームレート、配信手段への対応が求められています。他社製品から Adobe Creative Cloud に乗り換えたお客様からは、アドビのアプリケーションやソリューションを使うことで大きなメリットが得られたという声が聞かれます。この 1 年間でアドビが通常のリリースで強化した機能や新機能は数百に上っており、今後も引き続き映像制作プロフェッショナルの作業を効率化するために、ワークフローの水準をさらに引き上げていく所存です」

【導入各社コメント】

NASCAR Productions Production & New Media Technology ブロードキャストディレクター クリス ウィットメイヤ氏

「NASCAR ではスピードがすべてです。これまで経験したことのないスピードが求められるコンテンツ配信において、Adobe Creative Cloud は必要なすべてのツールを提供してくれています。Adobe Premiere Pro や After Effects などの頻繁なアップデートと同様に、Adobe Prelude や Adobe Anywhere の将来的な連携や効率面でのメリットによりワークフローを向上させることで、コンテンツそのものに重点的に取り組むことを可能にします。」

サタデーナイトライブ コーディネーティングプロデューサー スтейシー フォスター氏

「サタデーナイトライブの編集チームにとって、Final Cut Pro 7 から Adobe Premiere Pro への移行は思っていたより簡単でした。Creative Cloud アプリケーションは直感的かつ適応性が高く、すぐに使いこなすことができました。Creative Cloud の導入におけるアドビとの緊密な協業は、素晴らしい結果をもたらすことになりました。」

Late Night with Seth Meyers アソシエイトディレクター ダン ドーム氏

「Adobe Premiere Pro を活用して、新しい番組を新しいワークフローで始めることは、最も理にかなったことでした。映像素材をネイティブに扱うことができることと、GPU 高速処理を活用できることのメリットは、導入の決め手だったと言えます。言うまでも無く、これまで愛用してきたすべてのアドビ制作ツールとの高い連携性の点から見ても、Adobe Premiere Pro CC の選択は正しいものでした。」

Film Riot オーナー ライアン コノリー氏

「After Effects CC はさらに Premiere Pro CC との連携が強化され、エディターの理想が実現しました。Live Text テンプレートはその象徴で、アプリケーション間の移動やレンダリング処理を削減し、より連携性を高めました。2つのツールではあるが、まるで1つのツールを使っているかのようです。」

スターゲート スタジオ CEO・創業者 サム ニコルソン氏

「膨大な量のグリーンバック合成を行っているが、キーを生成、グリーンの色かぶりを調整する際に、Adobe After Effects CC の新しいキー合成エフェクトにより正確なディテールを再現できた。これにより、より早く、より詳細に作業ができるようになった。」

関連リンク (Focus in ブログを除き全て英語)

- [Focus In ブログ](#)
- [Creative Cloud blog](#)
- [ウェビナーへの登録 \(4月10日開催\)](#)
- [Facebook: Creative Cloud](#)
- [Twitter: Creative Cloud](#)
- [Adobe Anywhere](#)
- [Creative Cloud for Video](#)

提供予定

アドビが NAB においてプレビューを行うプロフェッショナル向け映像・オーディオ製品の一般提供は開始されていません。これらのアップデートは Creative Cloud の他のメジャーアップデートと併せ、今後数カ月のうちに提供を開始する予定です。映像およびオーディオツールのアップデートの詳細については、[こちら](#) (英語) もしくは [Focus in ブログ](#) をご覧ください。4月10日(アメリカ現地時間)に開催されるウェビナーは[こちら](#)から登録できます。

Adobe Creative Cloud について

Adobe Creative Cloud は、クリエイティブのプロセスに対する考え方を根底から覆し、あらゆるデバイスやデスクトップ、Web を通じてメンバーがコンテンツの検索や制作、配信、共有することでクリエイティブな表現力やインスピレーションに変化をもたらし、業界の動向を決定づけています。メンバーシップ制の Adobe Creative Cloud に加入することで、活発に活動する世界中のクリエイティブコミュニティへの参加、アプリケーションや Web サイトを作成、提供するための配信サービス、クラウド上のファイルストレージ、事実上すべてのデバイスと同期できる機能等を利用でき、新製品やアップデートも開発と同時に利用することができます。

将来的観測の開示について

本プレスリリースは、将来の製品計画に関連した事項を始めとするリスクと不確実性を内包した将来的観測を含みます。これらのリスクや不確実性の詳細についてはアドビのSEC提出書類で確認できます。アドビはこれら将来的観測を更新する義務を負うものではありません。

アドビについて

アドビは、世界を動かすデジタル体験を提供します。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、[Web サイト](#)に掲載されています。

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Premiere, After Effects, and Prelude are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2014 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. All other trademarks are the property of their respective owners.